

電動車椅子サッカーチーム「ナンチェスター・ユナイテッド」  
クラブ概要

クラブ名:	ナンチェスター・ユナイテッド
設立年月日:	2003年3月30日
ホームタウン:	鹿児島県加治木町
チーム人数:	プレーヤー8人 (2005年9月現在)

#### チーム名の由来

Nanchester.United(ナンチェスター・ユナイテッド)のNanは南の「ナン」。chesterは鹿児島弁の「チェスト」という言葉にかけています。「チェスト」とは鹿児島弁で「頑張れ!!」などと言うときに使います。(例文)「チェストいけー!!」

#### チームカラー

・ナンチェスターレッド、ブラック

ホームユニフォームには闘志、情熱のレッドをメインにラインにはそれを引き締めるブラックを。アウェイユニフォームにはホワイトを採用。

#### エンブレム

エンブレムで基調とする色は闘志と情熱の象徴、チームカラーでもあるナンチェスターレッド。エンブレム上部は地元鹿児島を代表する雄大な桜島。そこから流れる別府川を斜めのストライプで、それは同時に選手の真っ直ぐな姿勢を表現しています。さらに右下は燃えるサッカーボールを施し、電動車椅子サッカーへの熱い思いを表しています。



## 活動理念

### [1] スポーツを通じた社会貢献・電動車椅子サッカーの普及

ナンチェスター・ユナイテッドはスポーツを通じ、人々に勇気と活力を与える活動を目指します。そして電動車椅子サッカーの普及に積極的に取り組むだけでなく、身体障害者に対する正しい認識を得るための積極的な地域への参加、社会との交流による障害者の自立・社会参加を促進するクラブづくりを実行します。

### [2] 鹿児島から全国、そして世界へ通用するクラブを

ナンチェスター・ユナイテッドは全国に通用するクラブを目指します。そして近年の日本の電動車椅子サッカーの国際化に伴い、いずれは世界にも通用するクラブを目指し、鹿児島から夢と感動を発信していきます。

### [3] 夢と情熱を胸に、挑戦しつづける

ゼロからスタートしたナンチェスター・ユナイテッドは、地域や多くの人に支えられ、一つ一つ理想を現実のものにしてきました。そしてナンチェスター・ユナイテッドはこれからも多くの人と夢や感動を共有し、情熱を胸に挑戦しつづけます。

## 電動車椅子サッカーについて

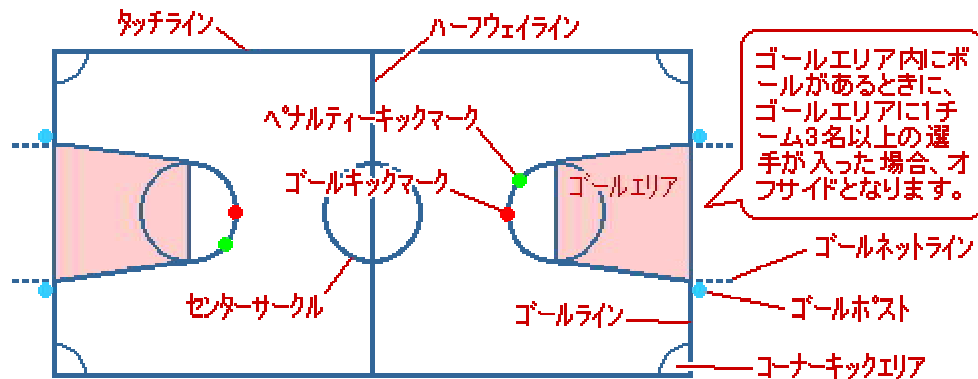
### 電動車椅子サッカーとは

電動車椅子サッカーは、アメリカやカナダなどで行われていた「パワーサッカー」を日本風にアレンジし80年代初頭に誕生しました。電動車椅子が操作できれば誰でも楽しむことができるスポーツです。重い車体でボールを押し合い、取り合い、ゴールに押し込むその迫力とはとてもエキサイティングなスポーツといえます。手に汗握る試合展開は他のスポーツと何ら変わりはありません。プレーヤーの多くは、脳性まひ、筋ジストロフィー、脊髄損傷等の疾患を有した身体障害者の方によって楽しまれています。

2002年度時点で日本電動車椅子サッカー連盟に登録したチームは全国に48あり、年々その人気は高まりつつあります。しかしその反面、電動車椅子サッカーの認知度は高いとはいえ、全国のチーム数もまだまだ十分とはいえません。これからも活動を通して、より多くの人に電動車椅子サッカーの面白さが伝えられていくことが望まれます。

### ルール説明

- ・コートは、バスケットボールのコートを使用。
- ・ボールは、直径約50cm（JIS規格9号）のサッカーボールを使用。
- ・1チーム4名、前後半各20分で行われ、延長戦・PK戦あり。
- ・各チーム、コートに入れる時速6キロの電動は最大二台まで。



## ナンチェスター・ユナイテッドの軌跡

ナンチェスター・ユナイテッドは、鹿児島県加治木町の南九州病院に入院中の青年達により結成されました。彼らは入院生活のループするような毎日の中でなにかしたいという衝動にかられます。「なにかしたい、なにかするならスポーツがいいね」、そんなスポーツ好きな彼らの言葉からすべては始まりました。学生の頃に授業で知ったスポーツする素晴らしさ。教えてくれたのは他ならぬ「電動車椅子サッカー」でした。「電動車椅子サッカー」、それは体の不自由な人でもハンデを感じることなく、集中して、全力で楽しくできるスポーツ。夢と希望を胸に2003年3月、「ナンチェスター・ユナイテッド」は結成されました。

しかし当時ナンチェスター・ユナイテッドに電動車椅子サッカーに関する情報は決して多いとはいえ、まさしく0(ゼロ)からのスタート。本格的に電動車椅子サッカーを行うようになった場合に必要になる専用のバンパー製作。クラブを運営していくために必要なこと。すべて一筋縄ではいきませんでした。しかし大変だった半面、充実感、達成感は選手一人一人の成長へつながりました。

そしてチーム設立から三ヶ月後。あらゆる障害を乗り越え、ついにナンチェスター初の公式戦が福岡で行われます。しかしそのときは惜しくも勝利を掴むことはできません。つづく同年の夏の大阪選抜大会、冬の熊本予選大会でも完敗を期し全国の壁の高さをまざまざと見せつけられました。そうして迎えた翌年の2004年10月31日。ナンチェスターは地元鹿児島で自らが主催した大会でようやく念願の初勝利、さらには初優勝をおさめることができました。その日まで積み重ねてきたもの、感謝の思い。選手達は感極まり、その一勝はチームにとってとても大きな原動力となりました。

翌年となる2005年は広島、熊本、神奈川の3大会に参戦。優勝はできずとも全国のトップチームとの対戦。確実にチームとしてのレベルが向上していることを、選手たちはまさしく体で感じ、敗北にもそこに自分たちの可能性をみいだすことができました。大会以外でも積極的に活動し、10月には福祉専門学校に講師として招かれ講演を行いました。

## 今後の課題

ナンチェスターの練習は週に1、2回のペースで行っています。しかし現在練習の際にサポートしていただけるボランティアの人数が不足しており、ボランティアの人数はギリギリあるいは足りない状態で練習を行っています。これは手伝っていただけるボランティアの方への負担が大きくなってしまっているので極力避けなければなりません。私たちは今後も周囲に電動車椅子サッカーのさらなる理解を求め、認知度の向上などでこれらの問題を解決していかねばなりません。

そして現在、ナンチェスターの一番の課題となっているもの。それは深刻な財政難です。現在チームの運営は選手の会費のみで賄っており、積極的な活動を行っていくにはかなり厳しい現状といえます。不足している資金は試合に必要な機材、使用する電動車椅子に関わる消耗品、メンテナンス、そして遠征費、と活動していくにはすべて必要不可欠なものです。これらが揃い、はじめて充実した活動に繋がります。

今後ナンチェスターが積極的な活動をしていくためにも、財政難の問題は早急な解決が求められています。

## ナンチェスター・ユナイテッドのこれから

私たちは当初、自分たちの毎日を変えるために電動車椅子サッカーをはじめました。しかしその段階を経てこれからのナンチェスターは次なるステップ、社会貢献に繋がる活動をしていきたいと考えています。

鹿児島にも電動車椅子に乗って生活している方は沢山います。しかし電動車椅子サッカーをプレーしているのは私たち以外にはいないのが現状です。残念なことに体の不自由さゆえスポーツをすることを諦めてしまう場合も少なくありません。「そんな人たちにも電動車椅子サッカーの素晴らしさを伝えたい」。ナンチェスターは今後の活動において、鹿児島での電動車椅子サッカー普及の中心的な役割を担っていかねばと考えています。それは多くの社会参加の機会をつくり、障害者の自立の促進にも繋がります。そしてなにより、ナンチェスターの活動によって健常者・障害者関係なく、確かな"何か"を伝えていくことができると感じています。それは明日への活力であったり、踏み出せずにいるその小さな一歩。すぐに数字などに表れるものではないかもしれませんが、しかしこれまでの活動を通して自分たちの周りに与える影響というものを、私たちは再認識せずにはいられません。

そして目指す活動としてもう一つ。ナンチェスターは九州を拠点に競技レベルの向上を図ります。地元鹿児島をはじめ広く社会に電動車椅子サッカーを浸透させ、競技人口を増やし、それによる競技レベルの向上を図ります。もちろんそれにはナンチェスター自身のレベルを上げ、社会への認知度を向上させることも非常に有効な手段だと考えています。

ナンチェスターはこれからも社会貢献に繋がられる、積極的な活動をしていきます。そして多くの人に支えられているという感謝の気持ちと熱い思いを胸に、ナンチェスターは走り続けます。